



登山のマナー

登山ハイキングの楽しみ方やメンバー構成は、単独・気心の知れた少人数・山岳会組織のクラブ山行・ツアー登山ハイキングなど多種多様です。いずれも最小限のマナーがあります。経験上気がついたことをまとめました。

出発前のマナー

家族の方と、登山口の登山届けのポストに登山計画書をいれましょう。ポストが無い場合は家族だけでもいいです。合宿など大きな計画は全国警察本部山岳救助隊などに提出します。

歩行中のマナー

1. 登山道ですれ違ったり、地元の人には挨拶しましょう。目線で軽く会釈でもいいです。
2. 登り優先です。下山者は道を譲ってください
3. 道を譲ってもらったときはお礼を言いましょ
4. 登山中の休憩はルートを開けてお休み下さい
5. 登山中の事故は人口落石も多いです。落石を起こした時はすぐ「落石!」と大声で言ってください。瞬間に身構えるので大きな事故を回避できます。
6. 登山中はリーダーに従ってください。ツアーではガイドの前を歩かないようにしてください。パーティのスピードコントロールが乱れ苦情がでます。

山小屋の利用とマナー

1. 山小屋は基本的に予約なしでも宿泊できますが、人数が多い時や規模の小さい山小屋を利用する場合は予約を入れましょう。
2. 山小屋についたら帳場で精算し、すぐに部屋に案内されます。部屋についたらすぐ自分のねぐらを確保します。スペースを取り過ぎないようにしましょう。
3. まず荷物を整理します。ヘッドライトと水筒は必ず枕元に置きます。
4. 夕食は指示があるまで待ちましょう。
5. 早立ちの人は朝食弁当を前日寝る前に受け取ってください。
6. 消灯時間は20~21時頃です。他人の迷惑にならないよう早く寝ましょう。
7. 5時ごろまでに出発する人は睡眠中の登山者を起こさないようにしてください。
8. 山小屋の朝食は5時ごろからです。お呼びがあるまで待ちましょう。
9. 水筒のお茶は購入します。勝手に入れてはいけません。
10. 7時ごろまでに、荷物をまとめてお礼を言って出ます。

高山植物と環境保全

登山中、山野草や高山植物が登山者の疲れた体をいやします。あまりにも可憐で美しいのでつい見とれてしまいがちですが、絶対とってははいけません。とるなら写真でとり思い出にしておいて下さい。ゴミのポイ捨てははいけません。昔はみかんの皮など腐食するものは捨ててもいいと勝手に判断していたが、最近では環境保全が時代のテーマになっており、生態系に悪影響を及ぼします。

パーティー内での総合的なマナー

自宅の出発時、雨が降っていることがあります。また、登山中に悪天候になることもあります。東京が雨でも長野県は晴れている場合もあります。いつ中止にするか決断が難しいです。最後はリーダー判断になりますが、リーダーにより決断時期が異なり、メンバーにストレスが発生することがありますが、ここは「山は逃げない」という気持ちで、各自コントロールされると和が保たれます。

道に迷ったら・・・

予期せぬ悪天候になったり、道に迷ったらことに気づいた時点で登山道が確認できるまで引き返してください。そのまま直進すると、遭難につながる場合があります。遭難すると家族をはじめ多くの方の支援を受けなければなりません。勇気を持って引き返してください。これもマナーです。

山岳保険 (国内旅行傷害保険・一般登山・ハイキング対象の保険など)

山行中に遭難すると救援者や家族など、多くの方にお世話になりますので保険の加入をお勧めします。山行内容により各種の保険補償が可能です。国内旅行傷害保険はガイド登山・ツアー登山によく利用され、一般登山ハイキング保険は無雪期の一般コースの山行に適応されます。救援者費用などの補償があります。ご検討下さい。

